

音楽を通じて心に癒しを

6月16日、山都町役場本庁舎多目的ホールで熊本地震慰問コンサートが行われました。バイオリンの演奏は、NHK交響楽団の篠崎史紀さん。ふれあいコンサートやスクールコンサート等で山都町との長年の縁があります。コンサートでは、曲の説明を踏まえながら心温まる全4曲を演奏しました。

30分ほどのコンサートでしたが訪れたみなさんは、目を閉じ、耳をすまし、穏やかなひとときを堪能しました。

篠崎史紀さんは「熊本地震でみなさんは精神的につらい思いをされたと思います。音楽を通じて少しでも癒しになり、元気になってくれたらいい」と話しました。



また来年も田植えしたい

6月10日、御岳小学校で世代間交流実行委員会の主催で田植えが行われました。これは、世代間交流事業の一環として保護者、老人会、公民館支館長など地域一体で毎年行われています。

全校児童30名が参加し、尻餅をついて泥んこになりながらも終始笑顔で田植えをしました。田植え中は地域の方だけではなく上級生が下級生に田植えを教える姿も見られました。田植え後には、児童からは、「去年より上手に植えられてとっても楽しかったので、また来年もしたい。」「来年からは家の田植えも手伝いたい。」などの感想が出ました。



矢部高校二輪車競技部全国大会へ

6月5日、第46回「二輪車安全運転熊本県大会」が熊本県運転免許センターで開催されました。

山都町からは矢部高校二輪車競技部と社会人の合同チームで出場し、一本橋やパイロンスラローム、法規走行など全12種目を走り、高校生等クラス及び女性クラスで見事優勝することができました。

各クラス優勝者は8月6日(土)・8月7日(日)に三重県の鈴鹿サーキット交通教育センターにおいて開催される「第49回二輪車安全運転全国大会」に出場します。

高校生等クラス 一位…高本湧斗君 (矢部高3年)
 二位…本田隼也君 (矢部高3年)
 三位…坂田龍治君 (矢部高3年)
 女性クラス 一位…山田朋代さん (矢部高OG)



鴨猪川水力発電事業の調印式

6月1日に山都町役場本庁で、鴨猪川水力発電所建設に関する協定書の調印式が行われました。

鴨猪川水力発電所は、菅地区を流れる緑川水系の鴨猪川から取水するかんがい水路を使って発電するもので、最大出力1,990kW、年間発電電力量は約9,600MWhを見込み、これは一般家庭約2,600世帯が1年間に使用される電気量に相当します。

協定書は、工藤町長立会いのもと、鴨猪水力発電所建設協議会、矢部土地改良区及び事業者の九電みらいエナジー株式会社にて締結されました。

調印後、工藤町長は「まちづくり、地域づくりの代表格として頑張っておられる菅地域に、鴨猪川という地域の水資源を活用した水力発電所が建設されることは非常にありがたいことであり、地域振興にさらに拍車に係ると期待しています。」とあいさつを述べました。



子ども自転車大会

6月18日、矢部小学校の体育館で山都町交通安全協会主催の子ども自転車大会が行われました。この大会は、交通事故防止を目的として、正しい交通規則を身につけるために、学科テスト・技能走行テストを実施して、日常生活において交通事故を防止するために毎年行われています。

本年度は矢部小学校の5・6年生7名が出場しました。技能走行テストでは「遅乗り走行」、「S字走行」、「ジグザグ走行」などが行われ、上位3名が7月9日に免許センターで行われる熊本県大会に山都町の代表として出場します。



防災風呂敷贈呈式

6月14日、矢部小学校で防災風呂敷の贈呈式が行われました。これは、全国へそのまち協議会で親交がある兵庫県西脇市からいただいたもので、西脇高校の生徒のみなさんが、今回の熊本地震により被災した地域を応援したいとの思いから、西脇市の伝統産業である播州織生地を使って作成されたものです。贈呈式で風呂敷の多様な使い方を習った児童たちは、一枚一枚手に取り、頭巾にして被ってみたり、バックを作ってみたりと興味津々な様子を見せていました。

※矢部小学校は平成28年から29年まで、熊本県教育委員会から学校体育・健康教育関係研修推進校「防災部門」に指定されています。



18歳になったら選挙へ

6月15日、矢部高校で3年生を対象に、山都町選挙管理委員会による選挙の出前授業が行われました。これは、7月10日に行われた参議院議員通常選挙から、選挙権年齢が18歳に引き下げられ、18歳になった高校生も投票できるようになったことに伴い、現役高校生への啓発活動の一環として実施されました。

授業では、委員会の職員が講師となり、身近な選挙等を例として、自身の生活に大きく関係するからこそ若者が投票する意義や大切さを話され、54名の生徒は、みんな真剣な表情で聞き入っていました。

高校生からは、自分たちがどのように選挙に参加できるかなど積極的な質問が多く飛び交い、選挙への関心の高さが伺えました。

